

A-Lab

archive
vol.20

A-Lab
あまらぶ アートラボ

尼崎市

お問合せ先

尼崎市 文化担当部 文化振興担当
TEL : 06-6489-6385 (イベント時 06-7163-7108)
FAX : 06-6489-6702
E-mail : amalove.a.lab@gmail.com

A-Lab ☒ Exhibition Vol.18

新鋭アーティスト発信プロジェクト

A-Lab Artist Gate 2019

鈴木 真衣子

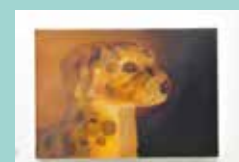
高畑 紗依

早石 萌莉

范 銘 珊

肥後 亮祐

森井 沙季



あまらぶアートラボ A-Lab Exhibition Vol.18

「A-Lab Artist Gate 2019」

■目次

「A-Lab Artist Gate 2019」 出展作品 01-06

鈴木 真衣子 01

高畑 紗依 02

早石 萌莉 03

范 銘珊 04

肥後 亮祐 05

森井 沙季 06

アーティスト・トーク 07-25

フライヤー・会場配布資料 26-27



鈴木 真衣子 / SUZUKI Maiko

1995 京都府出身
京都市立芸術大学 美術学部美術科版画専攻 卒業

【自身の作品について】

自分が面白いと思ったことを人に説明するために制作をしている。また、人の頭の中で勝手に動いて展開してしまう作品を作りたいと考えている。今取り組んでいるテーマは、日用品の「分解」である。「分解」で伝えたいことは「人間は現実にはあり得ない状況でも想像できる」ということと「人間は普段物を見るとき、実際には表面しか見えていなくても、内部をイメージしながら物を捉えている」ということだ。私が木版画で表現する理由は、木版画という技法に、下絵、分版、版木へのトレース、彫り、刷り、とイメージを繰り返しながら行程があるからだ。私にとってそれらの行程は、モチーフの構造を捉える過程である。



高畑 紗依 / TAKAHATA Sae

1993 大阪府出身
京都精華大学大学院 芸術研究科芸術専攻版画領域 修了

【自身の作品について】

輪郭線は、ある視点から眺めたときに見えるそのものらしい形をたどることで浮かび上がる、対象と周囲を隔てる境界線です。人によって違って見えているような曖昧なもの、形、関係、様々なものを確かめる・可視化する手立てとして 線は存在しています。輪郭線をなぞっていくうちに、どこからどこまでが一つの物の形なのか、どこで線を引くべきなのか境があやふやになって行きます。さらに、解体することで、ただの線になり、本来の意味を失ってしまいます。形をなぞり線を描き、さらにそれを解体する工程を経て、空間に線を散りばめます。それは、ものの形、線のありかについて問いかけるための作業だと考えています。



早石 萌莉 / HAYAISHI Moeri
1996 大阪府出身
京都精華大学 芸術学部造形学科立体造形コース 卒業

【自身の作品について】
木で海に関連するものを制作しています。



范 銘珊 / Rice Mingshan Fan
1991 中国出身
大阪芸術大学大学院 修士課程写真専攻 修了

【自身の作品について】
自己意識と自己認識を主なテーマとして作品制作に取り組んでいる。また、写真以外にもビデオや彫刻などのさまざまなフォーマットを試している。



肥後 亮祐 / HIGO Ryosuke

1995 北海道出身
京都精華大学 芸術学部メディア造形学科版画コース 卒業

【自身の作品について】

見れていなかったノイズ（背景）が見たいものへと反転する時、意識するまでの潜伏期間に起こったことを考えたりする。背景として処理される前の環境や状況について考えながら制作している。



森井 沙季 / MORII Saki

1996 兵庫県出身
京都造形芸術大学 油画コース卒業

【自身の作品について】

人が思い描く「夢」というのは常に「理想」と「虚構」、この二つに引き裂かれている。色鮮やかな「理想」が否定へと変質した際、灰暗い「虚構」が現れ次第にその鮮やかな色が明度を奪われ、臃げな色彩へと変容してしまう。人が夢を叶えるプロセスは光と影、表と裏、相反する2つの要素が互いを飲みこみ合い、ブラッシュアップされて行き巡り着くものだ。私はその過程を美しく思いキャンバスへと写し込む。

「A-Lab Artist Gate 2019 アーティストトーク」



出演 おかけんた、鈴木 真衣子、高畑 紗依、范 銘珊、肥後 亮祐、森井 沙季
司会 尼崎市 文化振興担当 松長
日時 2019 (令和元) 年 6 月 1 日 (土) 午後 2 時～ 4 時
場所 あまらぶアートラポ (A-Lab room1)



トークイベント時の会場の様子

おかけんた (以下：おか)

皆さん、こんにちは！よろしくお願いいたします！
尼崎市民の方はどれくらいいてるんやろ？
今回「A-Lab Artist Gate 2019」ということで、毎年私がMCをさせていたでいてアーティストさんに一体どんな作品なのか、学生時代どんな風に過ごしていたのかを皆さんに知っていただくためのイベントです。今日は暑い中、足を運んでいただきありがとうございます。今日は暑いですね、現代美術、コンテンポラリーアートというのは一体何なのか不可解で分からないという方がいらっしやると思うんですが、そういったことを分かりやすく紐解いていきたいなと思いますので、最後までお付き合いいただきたいと思います。それではアーティストの方をご紹介しますと思います。では最初に、鈴木真衣子さんよろしくお願いいたします。

鈴木真衣子 (以下：鈴木)

よろしくお願いいたします。
おか 大学はどこですか？
鈴木 京都市立芸術大学を卒業しました。今は同じ大学の大学院に通っています。
おか 作品はどちらに展示されていますか？
鈴木 廊下に掛けられている額に入った版画作品です。
おか 段ボールに入ってるものが分解されたりしてる作品ですよね？これは一体どういうコンセプトというのかな意味があるんですか？
鈴木 簡単に言うと鑑賞者が頭の中でついはいめてしまいたいなそういう作品をつくりたいなって思ってます。
おか 普通、平面っていうものはその中で形が完成しているものだけれども、それを実際に見ている人が例えばパズルのように分解してみたりとか、そういうものを可視化したということなんですね。
鈴木 ありがとうございます。
おか 僕ら子どもの頃にそういう解体作業をしましたよね。例えばラジオを自分で解体したりとか、ものを切っとうなるのかとかね。大きく言うとう想像の世界とか、そういったものをコンセプトにしています。それを後々なぜこうなっていたのかということを紐解いていきたいなと思います。今回何点くらいの作品を展示されていますか？
鈴木 作品自体は何点かでセットになっているものもあるんですけど、額の数はいくつです。

おか 今回展示されている作品は、卒業制作展で発表した作品ですか？

鈴木 卒業制作展で発表したものが大半なんですけど、二点だけ今年度つくった新作があります。

おか やっぱ卒業制作展で出したものと、新たにつくった二点では、気持ちはずうんですか？

鈴木 続いてはいるんですけど、ちょっと次の章に入ってきたかなっていう感じです。

おか なるほど、大学院に進学して、次のステージに進んだような感覚ですね？ちなみにその二点というのはどの作品なんですか？

鈴木 シャンプーとか石鹸が縦に割れてる作品と魚がまな板の上でぐちゃってなってる作品です。魚がいっぱいいる作品は、卒業制作の作品で、一匹しかいない方が新しい作品です。

おか 鈴木さんは京都市立芸術大学、通称「京芸」と呼ばれていますが、大学では一体どんなことをしていて、どういう場所なのか。そしてどんな生活をしてたのかということをお聞きするのに画像を用意していただいておりますので、それをご覧いただきたいと思います。



鈴木 ちょっと勘違いしてまして、大学が写ってる写真にすればよかったんですけど…。これは宮崎駿がデザインした東京の三鷹市のキャラクターで。趣味でアニメーションをつくってたりしたんですけど。コン

ペにノミネートされたので会場で流してもらっていたことがあって、その会場でちょっと惹かれて撮影した写真です。

おか その会場に来てたんですね、そのキャラクターが。

鈴木 そうです。

おか アニメーション自体はどうだったんですか？

鈴木 結局受賞には至りませんでした。

おか 一つの学生時代の良い思い出ですね。でもそれならアニメーションを映しません？キャラクターよりそのアニメーション流した方が良かったんじゃない？

次行きましょうか。これは…？